みなとづくり

1 クルーズ観光の拡大による地域経済の活性化

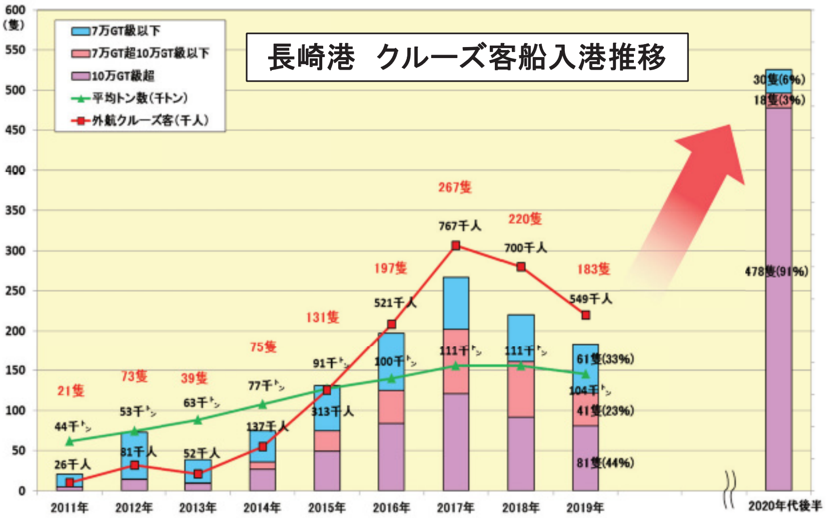
問合せ先 港湾課

長崎港では、近年、観光産業への経済波及効果が期待できる大型クルーズ客船の入港が急増しています。
令和２年度より松が枝岸壁の２バース化が新規事業化されたことから、円滑な事業環境を整えるため、関係者との調整を加速させるとともに、埠頭背後のまちづくりと連携を強化し、早期完成を目指します。

●長崎港へのクルーズ船の寄港

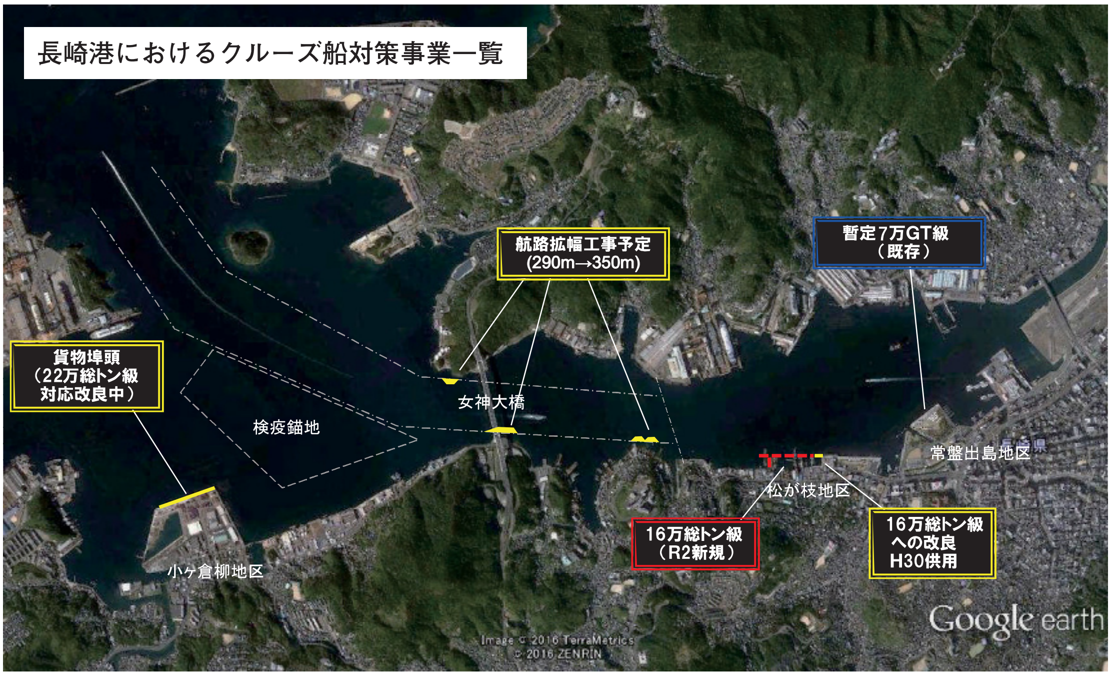
令和元年は183隻が入港、約55万人の乗客が長崎を訪れました。（国内港湾で第４位）
クルーズ関係者へのヒヤリング結果から、今後も中国クルーズ市場は拡大することが想定されており、2020年代後半には500隻を超える入港が見込まれます。

クルーズ客船の受入機能の強化が求められる



●クルーズ船の受入環境の強化

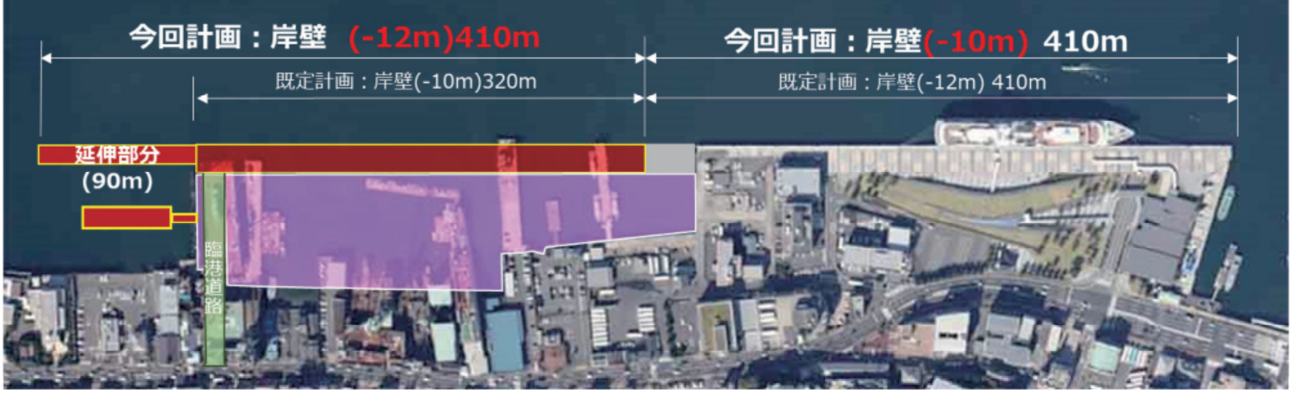
① クルーズ船の大型化に対応するため、港湾施設機能の充実を図っています。



② 令和2年1月に長崎港港湾計画の一部変更を行ないました。

近年のクルーズ需要の急増、およびクルーズ船の大型化に対応するため、従来の計画を、より大型のクルーズ船が係留できる計画として見直しました。

		第２バース	第１バース
変更前	延長／水深	320m ／ -10m	410m ／ -12m
	対象船舶	7万GT級旅客船（Legend of the Seas） 水深：Diamond Princessに対応	16万GT級旅客船（Queen Mary 2）
変更後	延長／水深	410m ／ -12m	410m ／ -10m
	対象船舶	16万GT級旅客船（標準船型） 水深：Queen Mary2に対応	16万GT級旅客船（標準船型）



③ 松が枝岸壁背後地のまちづくり構想の検討を進めています。

- 延伸する岸壁とターミナル機能等とあわせて、背後のまちなみと調和した都市空間の形成、交通結節機能等を検討し、“みなとづくり”と“まちづくり”を一体的に進めます。

2 離島・半島等のくらしを支える地域交通の確保

問合せ先　港湾課

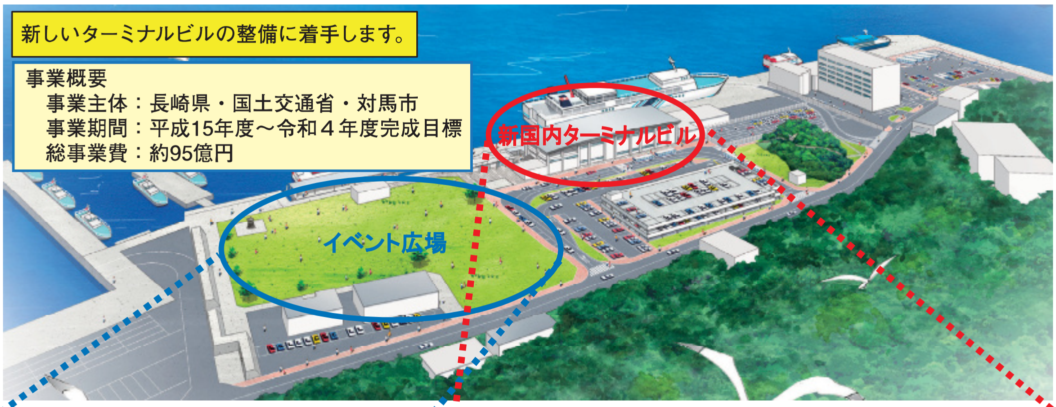
　離島と本土等を結ぶ定期航路の安定的な海上運輸活動を支え、安全・効率的で利便性が高いみなと整備を進めます。

口ノ津港の定期船埠頭整備及び地域交流拠点の形成

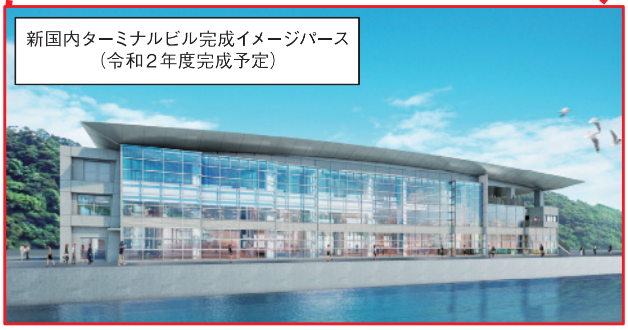
緑地の利用状況（マリンフェスタ）

老朽化した施設を更新し、効率的で安定した輸送手段を確保するとともに、南島原地域の交流の拠点を形成する。

厳原港の埠頭再編（旅客埠頭の整備）

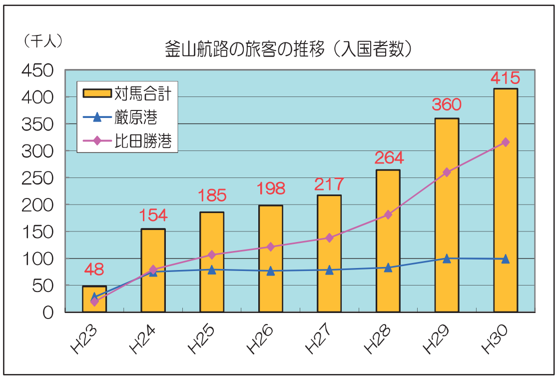


にぎわいのある埠頭（厳原みなとまつり）



新国内ターミナルビル完成イメージパース
（令和２年度完成予定）

近年、対馬ー釜山航路の利用者が著しく増加している。
※平成 30 年は過去最高の約 41 万人



現在の手狭なターミナルビル　→　国内・国際を分離する

韓国人観光客

混雑する国内線